平成　23　年度事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

平成　24　年　5　月　31　日時点

事務事業名				課	子育て支援課
	コード1	0850	児童遊園維持管理費	所属班	子育て支援班
	コード2		□ 主要事業	電話番号	62-8012　内線　164

政策体系				予算科目	会計	款	項	目
	基本方針	2	快適でうるおいのあるまちづくり		一般会計	03	03	03
	施策	6	公園の整備と緑化の推進	根拠法令	旭市児童遊園設置条例			
	施策の展開	2	その他の公園の整備					
	基本事業	113	その他の公園の維持管理					

1　現状把握（Do）

（1）事業概要

① 事業期間	② 事業の内容　※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☑ 単年度繰返 □ 平成＿＿年度～ ☑ 開始年度不詳 □ 期間限定複数年度 平成＿＿年度～ 平成＿＿年度まで ※全体像を記述⇒	児童の健康を増進し、情操をゆたかすることを目的に、児童に遊び場を提供し、市内42ヶ所に児童公園を設置、維持管理を行っている。 公園の見まわりや草刈りなどの日常的な管理は地元区に委託し、遊具の修繕は市が行っている。 【業務の流れ】 （毎年4月1日付け）児童遊園維持管理委託契約を締結⇒委託料を各区長へ支給

（2）トータルコスト

① 事業費の内訳（費目等）

平成23年度の決算額

需要費	566千円	遊具等の修繕	
委託料	936千円	管理委託料	
工事請負費	237千円	遊具の撤去費	
原材料費	66千円	修繕資材	計　1,805千円

② 延べ業務時間の内訳

年度当初の委託契約事務時間、発生対応の遊具管理時間など

			単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	－	－	－	－		
		都道府県支出金	千円	－	－	－	－		
		地方債	千円	－	－	－	－		
		その他	千円	－	－	－	－		
		一般財源	千円	8,678	1,976	1,805	2,328		
	事業費計（A）		千円	8,678	1,976	1,805	2,328	0	0
人件費	正規職員従事人数		人	0.05	0.05	0.05	0.05		
	延べ業務時間		時間	100	100	100	100		
	人件費計（B）		千円	380	380	380	380	0	0
トータルコスト(A)＋(B)			千円	9,058	2,356	2,185	2,708	0	0

（3）事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段

① 主な活動

23年度実績（23年度に行った主な活動）
・児童遊園維持管理委託
・中央児童遊園維持管理委託　など

24年度計画（24年度に計画している主な活動）
・児童遊園維持管理委託料を支給
・中央児童遊園維持管理委託料を支給　など

⑤ 活動指標名

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	児童遊園管理の委託	か所	43	43	42	42		
イ	その他遊び場管理の委託	か所	1	1	1	1		
ウ	遊具等の修繕・撤去箇所数（うち、撤去箇所数）	ヶ所	22（撤去 0）	14（撤去 1）	8（撤去 0）	4（撤去 0）		

目的

② 対象（誰、何を対象にしているのか）

・児童遊園の利用者
・児童遊園

⑥ 対象指標名

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	児童遊園の数	か所	43	43	42	42		
イ	その他遊び場の数	か所	1	1	1	1		

③ 意図（対象がどのような状態になるのか）

・利用者が安全に利用できる。
・適切に管理できている。

⑦ 成果指標名（考え方）

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	苦情件数（苦情がないことが、安全に管理できていると考える。）	件	0	0	0	0		
イ	（　　）							

上位目的

④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか

次世代育成及び子育て支援に結びつける。

⑧ 上位成果指標名（考え方）

		単位	21年度（決算）	22年度（決算）	23年度（決算）	24年度（計画）	25年度（計画）	26年度（計画）
ア	（　　）							
イ	（　　）							

（4）事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？
設置当時、児童の遊び場が減少していた。	（H19）　（H24） 【設置か所】　45か所　42か所 【そ の 他】　1か所　1か所 現在では子どもの数が減り、外で遊ぶ子どもも減ってきている。	平成22年度児童遊園設置及び管理について各区長のアンケートを実施 （結果）飯岡地域の1か所を廃止 その他は存続を希望

事務事業名	児童遊園維持管理費	課名	子育て支援課	班名	子育て支援班

2 評価（Check1）担当者による事後評価

目的妥当性評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 結びついている ⇒【理由】 市の計画には位置づけられていないが、子どもの安全な遊び場を確保することは、次世代育成や子育て支援に結びつく。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☑ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 適切である ⇒【理由】 対象の児童のみならず、地域住民の憩いの場として利用がされている。高齢者の利用も少なくない。 地域の実情によって利用目的が異なっていることから、児童遊園の対象や意図を見直す必要がある。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☑ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 地域の区長に対し委託契約する方法で児童遊園の管理をしている。 地域に児童遊園を譲渡するなど、行政関与の見直しができないか。
有効性評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 妥当である ⇒【理由】 苦情もなく安全に管理することができている。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとどうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☑ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 利用目的が児童のための施設から変化しており多様化されている。また、類似団体と比較すると設置数が多い。 地域に児童遊園を移譲し管理してもらうことで、地域の連帯感が生まれ、児童遊園の利用価値が上がるのではないか。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☑ 他に手段がある (1) 事務事業名：(都市公園、その他公園、農村公園など) (2) ☑ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 都市公園やその他公園、農村公園など類似する公共施設が児童遊園に隣接しているケースもあるので、統廃合ができるのでないか。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地（表面トータルコストの事業費部分） 事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど）	☑ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 地域の区長に対し委託契約する方法で児童遊園の管理をしているが、地域に児童遊園を無償譲渡したり、利用者の少ない公園は廃止するなどすれば委託費を削減できる。
	⑧ 人件費の削減余地（表面トータルコストの人件費部分） やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 現状において、本事業に対する業務時間は削減されている。
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☑ 公平・公正である ⇒【理由】 児童遊園の利用も無料であり、利用目的も限定はしていない。

3 評価（Check2）担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果			(2)全体総括（振り返り、反省点）
① 目的妥当性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり	各区長へ2万円の委託料で管理していただいている現状。子どもが減り、学童で一日の大半を過ごしている状況なので需要も見込めないことから廃止の方向で進める。
② 有効性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり	
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（Plan）

(1)今後の事業の方向性（複数選択可）　※2～3年後を目処にした方向性

☑ 目的再設定
☑ 事業のやり方改善による成果向上
☑ 事業のやり方改善による事業費削減
☐ 受益機会の適正化
☑ 廃止・休止
☑ 行政関与の見直し
☑ 事業統廃合・連携（関連事業：　　）
☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
☐ 費用負担の適正化

(2)改革改善案について　※いつまでに、なにを、どうするのか？

① 平成24年度　公園等を管理する担当課と児童遊園のあり方を協議（管理担当課の一元化も含む）
② 平成25年度　委託契約をしている各区長に対し、児童遊園の必要性や譲渡等のアンケートを実施
③ 平成26年度以降　児童遊園の統廃合や譲渡などを実施
④

(3)改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト 削減	維持	増加
成果	向上			
	維持	○		
	低下			

(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

① 児童遊園用地の多くが借り上げによるものであり、所有者との協議が必要。
②
③
④